

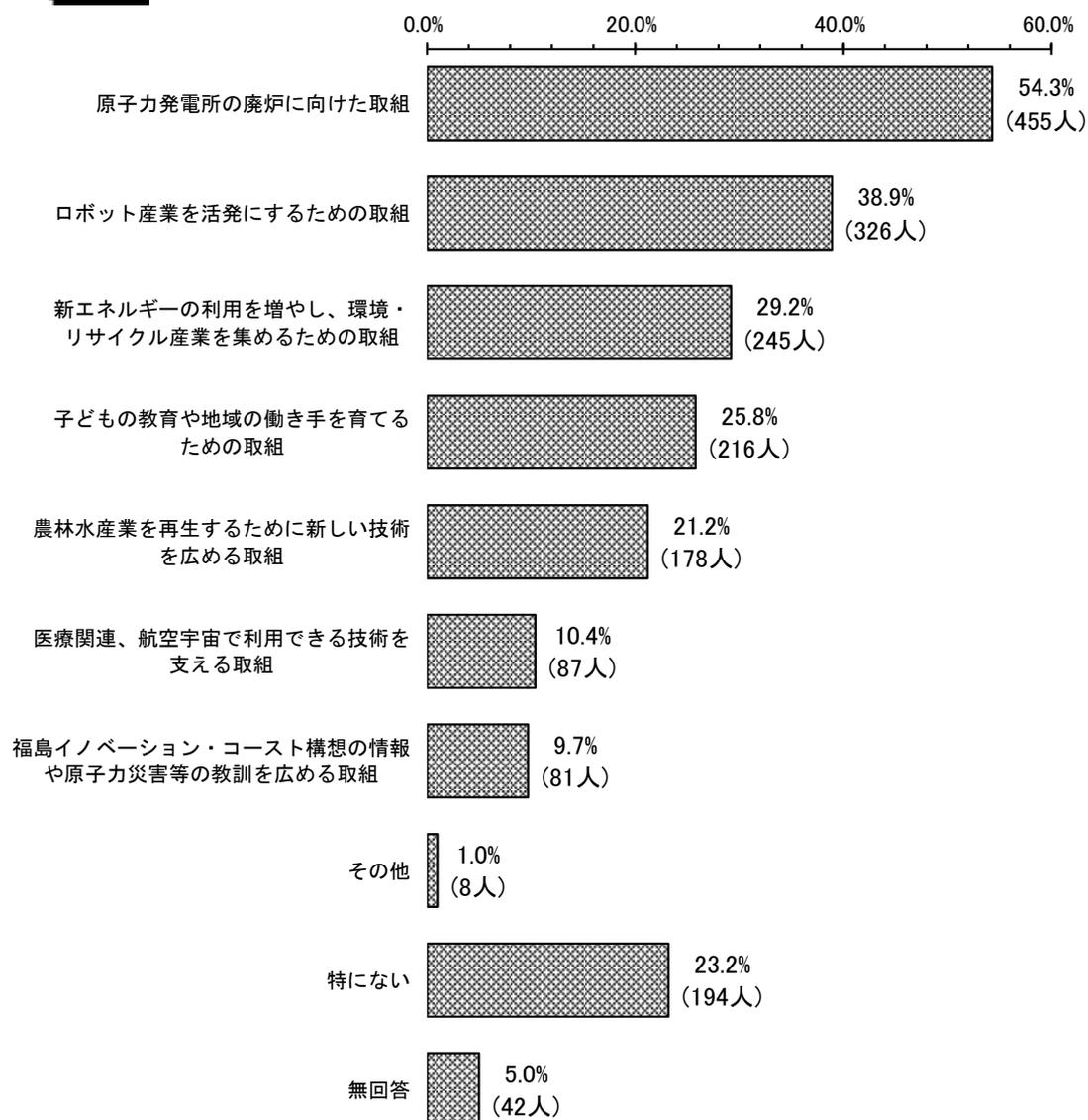
## 5. 福島イノベーション・コースト構想について

### (1) 福島イノベーション・コースト構想※について知っている取組

問10 福島イノベーション・コースト構想について、あなたはどのような取組を知っていますか。

あてはまるものはいくつでも○をつけてください。

全体  
(n=838)



福島イノベーション・コースト構想について知っている取組は、「原子力発電所の廃炉に向けた取組」(54.3%)が最も多く、過半数を占めている。以下、「ロボット産業を活発にするための取組」(38.9%)が約4割、「新エネルギーの利用を増やし、環境・リサイクル産業を集めるための取組」(29.2%)が約3割などとなっている。

※【参考】福島・国際研究産業都市（イノベーション・コースト）構想とは

福島イノベーション・コースト構想は、東日本大震災と原子力災害によって大きな被害を受けた浜通り地域等の産業を回復するため、この地域を新たな産業が次々と生まれる場所になることを目指すものです。

構想を実現するために、以下の分野を中心に取り組んでいます。

・原子力発電所の廃炉に向けた取組

廃炉国際共同研究センター（富岡町）での研究開発、地元企業を廃炉産業へ参入しやすくするための取組など。

・ロボット産業を活発にするための取組

福島ロボットテストフィールド（南相馬市）を活用したロボット・ドローン等の実証実験など。

・新エネルギーの利用を増やし、環境・リサイクル産業を集めるための取組

福島水素エネルギー研究フィールド（浪江町）での研究開発など。

・農林水産業を再生するために新しい技術を広める取組

自動運転トラクター、ドローンによる農薬散布など。

・医療関連、航空宇宙で利用できる技術を支える取組

健康状態の分析・確認ができる衣類の開発、空飛ぶクルマの開発など。

・子どもの教育や地域の働き手を育てるための取組

ふたば未来学園（広野町）での教育活動、大学や地元企業等の力を借りた特色ある教育プログラムなど。

・福島イノベーション・コースト構想の情報や原子力災害等の教訓を広める取組

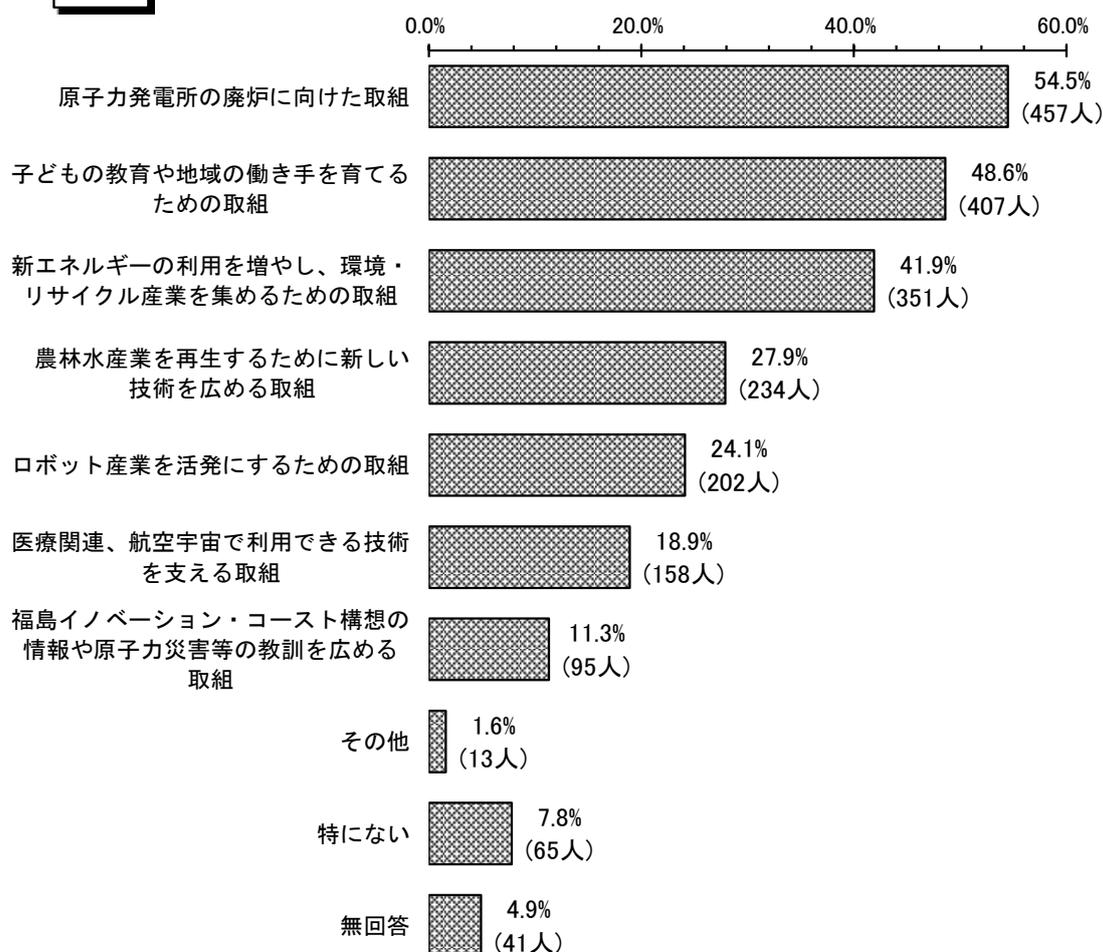
ホームページやSNS※での情報発信、東日本大震災・原子力災害伝承館（双葉町）など。

※SNS：ソーシャルネットワーキングサービス（Social Networking Service）の略で、登録している利用者同士がインターネットを通じて交流できるサービスのこと。

## (2) 福島イノベーション・コースト構想を推進するため、県に強化してほしい取組

問11 今後、福島イノベーション・コースト構想を進めていくために、県はどのような分野の取組を強化していけばよいと考えますか。あてはまるもの3つまで○をつけてください。

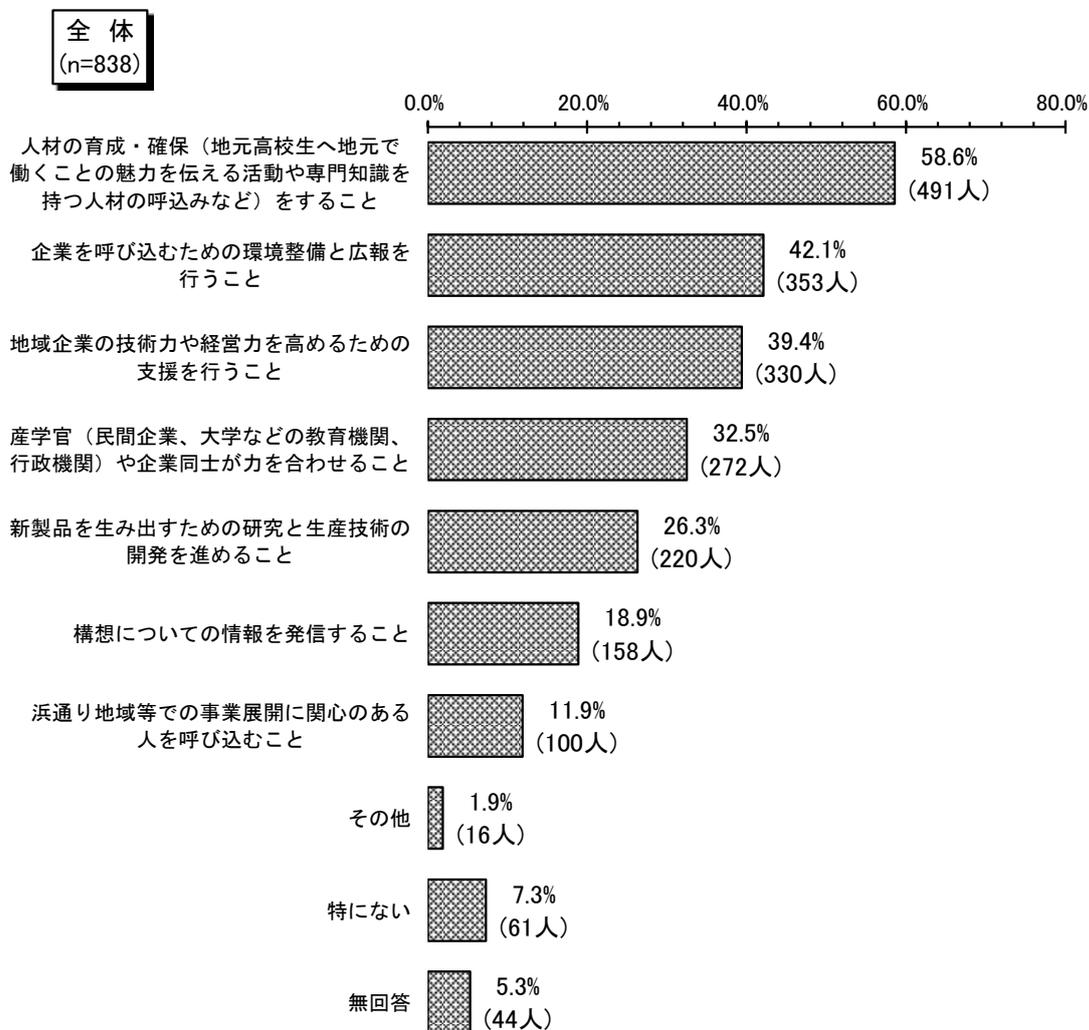
全体  
(n=838)



福島イノベーション・コースト構想を推進するため、県に強化してほしい取組については、「原子力発電所の廃炉に向けた取組」(54.5%)が最も多く、過半数を占めている。以下、「子どもの教育や地域の働き手を育てるための取組」(48.6%)と「新エネルギーの利用を増やし、環境・リサイクル産業を集めるための取組」(41.9%)が4割台、「農林水産業を再生するために新しい技術を広める取組」(27.9%)と「ロボット産業を活発にするための取組」(24.1%)が2割台となっている。

### (3) 福島イノベーション・コースト構想の効果をもたらすための施策

問12 今後、これらの取組をさらに進めるとともに、その効果がより地域の皆さんに届くようにするためには、どのような施策がよいと考えますか。  
 あてはまるもの3つまで○をつけてください。

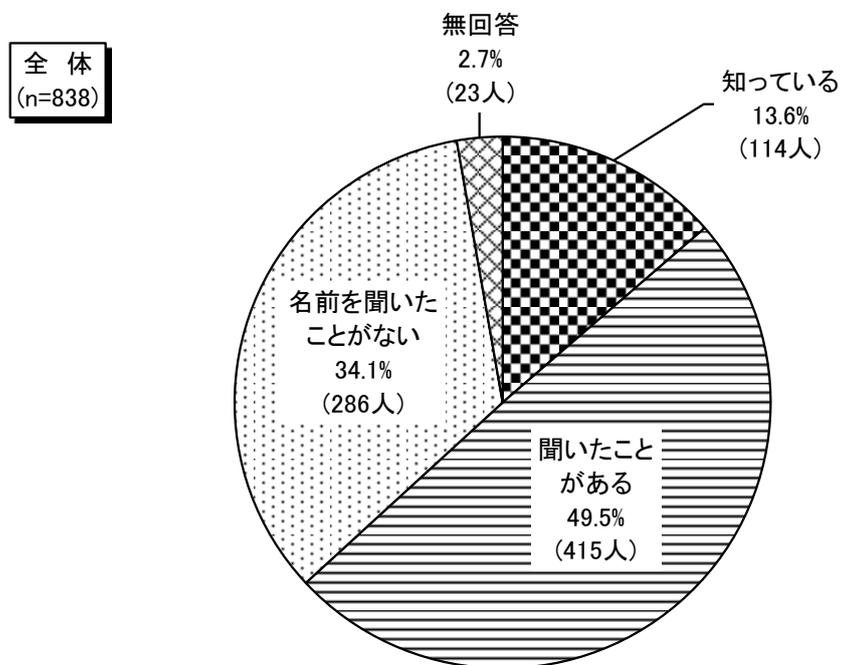


福島イノベーション・コースト構想の効果をもたらすための施策については、「人材の育成・確保（地元高校生へ地元で働くことの魅力を伝える活動や専門知識を持つ人材の呼び込みなど）をすること」（58.6%）が最も多く、約6割となっている。以下、「企業を呼び込むための環境整備と広報を行うこと」（42.1%）が4割強、「地域企業の技術力や経営力を高めるための支援を行うこと」（39.4%）が約4割、「産学官（民間企業、大学などの教育機関、行政機関）や企業同士が力を合わせることをすること」（32.5%）が3割強などとなっている。

## 6. チャレンジふくしま県民運動について

### (1) チャレンジふくしま県民運動の認知状況

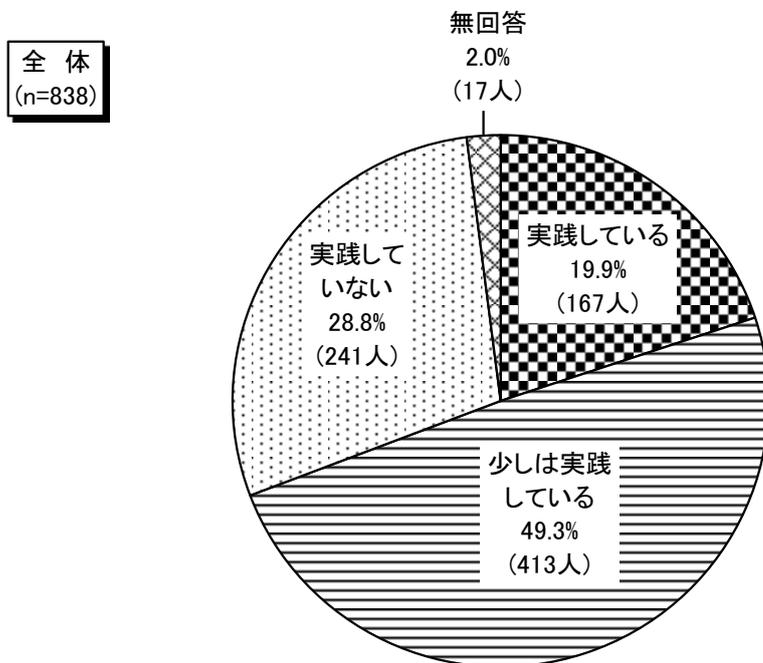
問13 「健康」をテーマとしたチャレンジふくしま県民運動について、最もあてはまるもの1つに○をつけてください。



チャレンジふくしま県民運動の認知状況については、「聞いたことがある」(49.5%)が最も多く、約半数を占めている。次いで、「名前を聞いたことがない」(34.1%)が3割強、「知っている」(13.6%)が1割強で続いている。

## (2) 心身の健康づくりの実践状況

問 14 例えば、減塩、ウォーキング（ウォークビズ※含む）など軽い運動、サークル活動のような心身の健康づくりを最近行っていますか。  
最もあてはまるもの1つに○をつけてください。



心身の健康づくりの実践状況については、「少しは実践している」(49.3%)が最も多く、約半数を占めている。次いで、「実践していない」(28.8%)が3割弱、「実践している」(19.9%)が約2割で続いている。

※【参考】ウォークビズとは

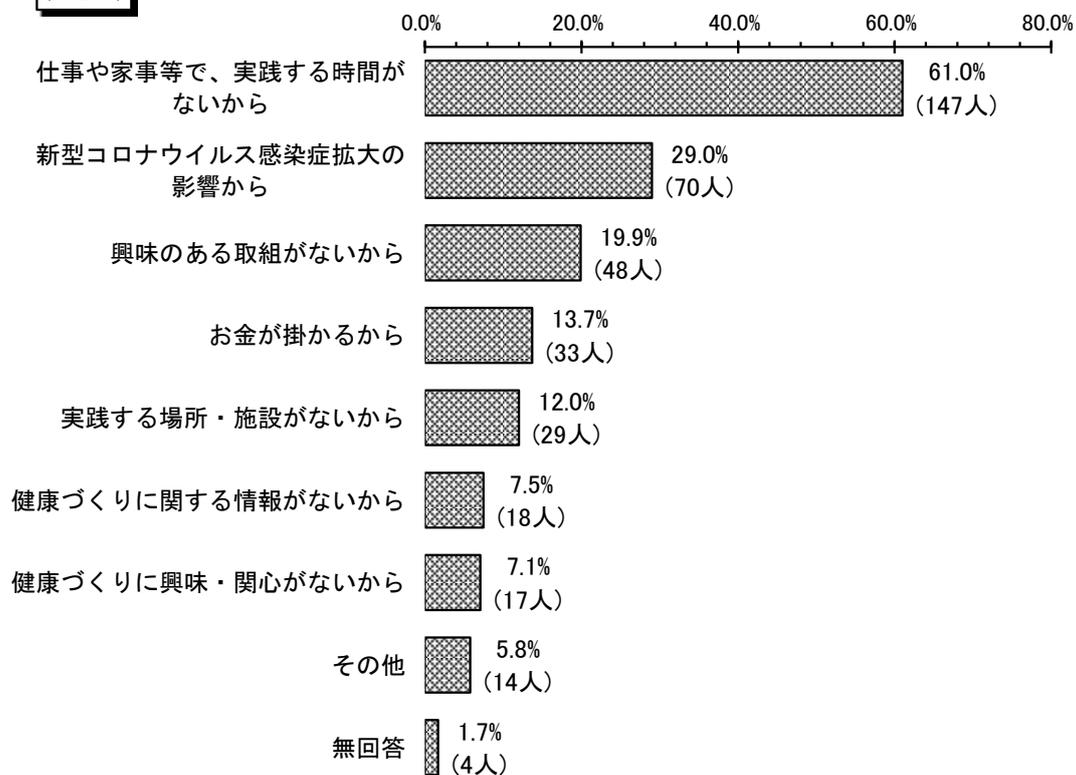
健康づくりのため、歩きやすい靴や服装で通勤・勤務すること。

### (3) 心身の健康づくりを実践していない理由

(問14で「3 実践していない」と回答した方にお尋ねします。)

問15 健康づくりを実践していない理由について、  
あてはまるものにいくつでも○を付けてください。

全体  
(n=241)

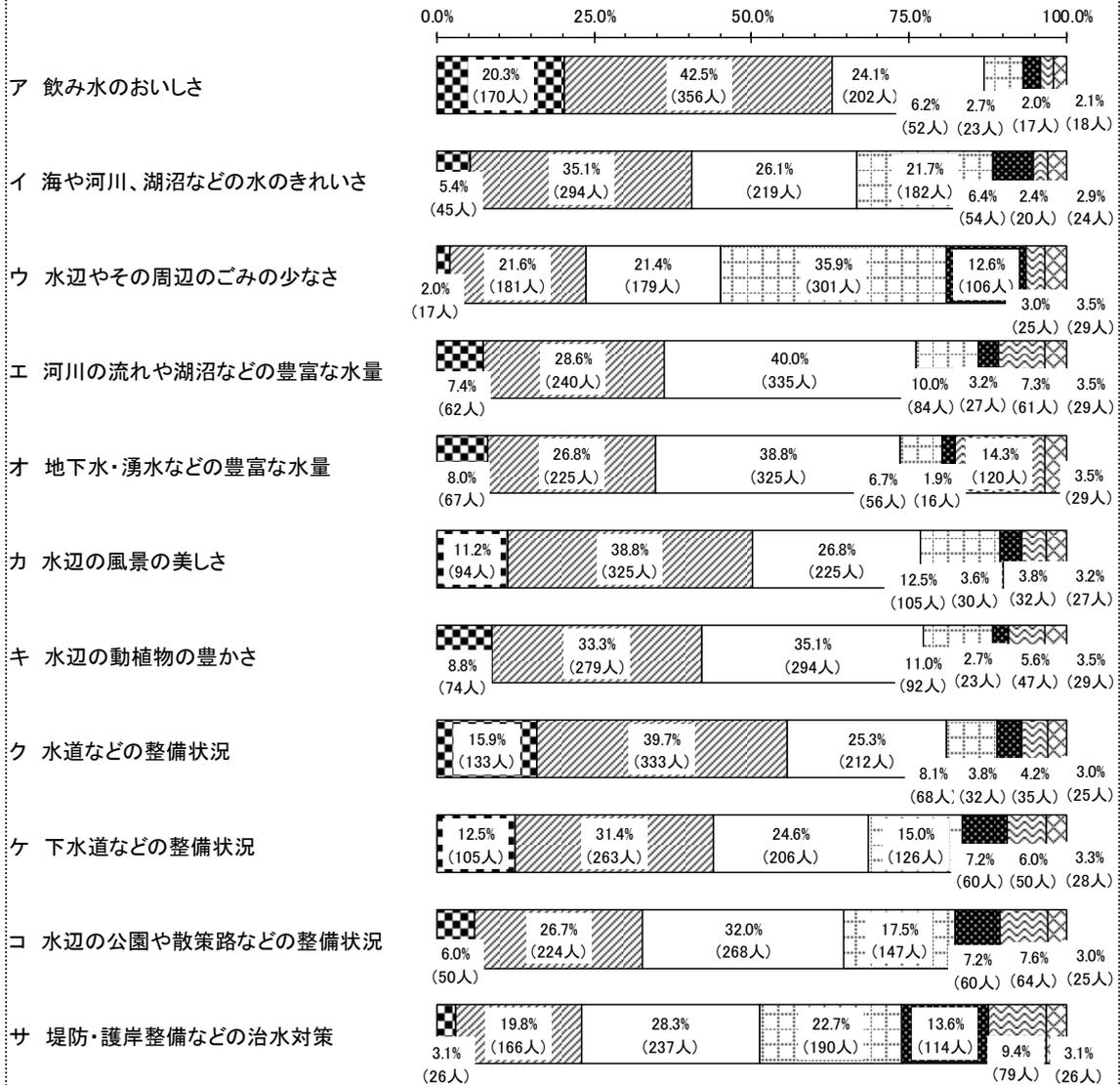
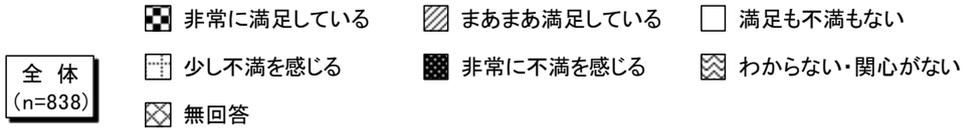


心身の健康づくりを実践していない理由は、「仕事や家事等で、実践する時間がないから」(61.0%)が最も多く、約6割となっている。以下、「新型コロナウイルス感染症拡大の影響から」(29.0%)が約3割、「興味のある取組がないから」(19.9%)が約2割などとなっている。

## 7. 水環境について

### (1) 水環境の満足度

問 16 あなたは、身近な「水」に関するア～サの項目についてどうお考えですか。  
それぞれ1～6の中であてはまるもの1つに○をつけてください。



「非常に満足している」と回答した人の割合をみると、〈ア 飲み水のおいしさ〉(20.3%)が最も高く、約2割となっている。以下、〈ク 水道などの整備状況〉(15.9%)、〈ケ 下水道などの整備状況〉(12.5%)が1割台などとなっている。

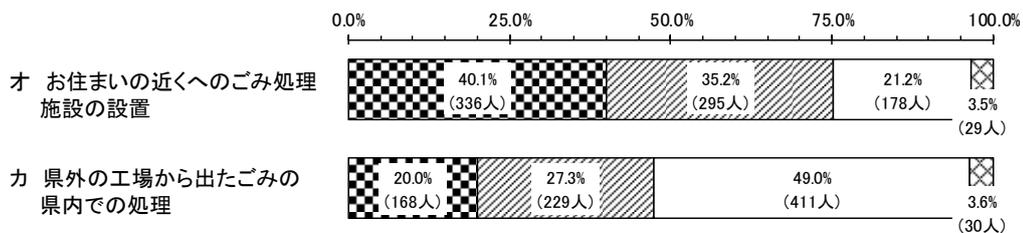
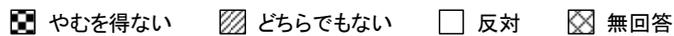
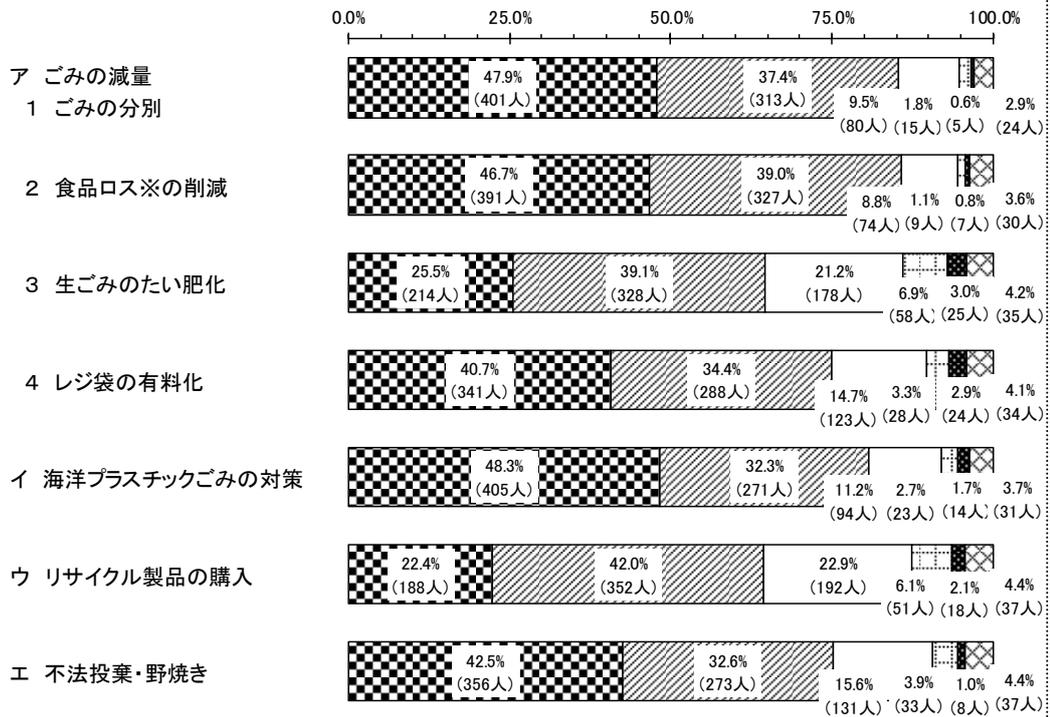
「非常に満足している」と「まあまあ満足している」を合わせた『満足している』計の割合をみると、〈ア 飲み水のおいしさ〉(62.8%)が最も高く、6割強となっている。以下、〈ク 水道などの整備状況〉(55.6%)と〈カ 水辺の風景の美しさ〉(50.0%)が5割台、〈ケ 下水道などの整備状況〉(43.9%)、〈キ 水辺の動植物の豊かさ〉(42.1%)、〈イ 海や河川、湖沼などの水のきれいさ〉(40.5%)が4割台などとなっている。

一方、「非常に不満を感じる」と「少し不満を感じる」を合わせた『不満を感じる』計の割合は、〈ウ 水辺やその周辺のごみの少なさ〉(48.5%)が最も高く、約半数を占めている。以下、〈サ 堤防・護岸整備などの治水対策〉(36.3%)が4割弱、〈イ 海や河川、湖沼などの水のきれいさ〉(28.1%)が約3割などとなっている。

## 8. ごみ対策について

### (1) ごみ対策への関心度と意向

問 17 あなたは、「ごみ」に関するア～カの項目についてどうお考えですか。  
 それぞれ1～5（オとカは1～3）の中であてはまるもの1つに○をつけて  
 ください。



アからエについて、「とても関心がある」と回答した人の割合をみると、〈イ 海洋プラスチックごみの対策〉(48.3%)、〈ア ごみの減量 1 ごみの分別〉(47.9%)、〈ア ごみの減量 2 食品ロスの削減〉(46.7%)が同程度に高くなっている。

「とても関心がある」と「少し関心がある」を合わせた『関心がある』計の割合をみると、〈ア ごみの減量 2 食品ロスの削減〉(85.7%)と〈ア ごみの減量 1 ごみの分別〉(85.3%)が同程度に高く、8割台となっている。次いで、〈イ 海洋プラスチックごみの対策〉(80.6%)が8割台、〈ア ごみの減量 4 レジ袋の有料化〉と〈エ 不法投棄・野焼き〉(ともに75.1%)が7割台、〈ア ごみの減量 3 生ごみのたい肥化〉(64.6%)と〈ウ リサイクル製品の購入〉(64.4%)が6割台となっている。

一方、「まったく関心がない」と「あまり関心がない」を合わせた『関心がない』計の割合は、〈ア ごみの減量 3 生ごみのたい肥化〉(9.9%)が最も高く、次いで、〈ウ リサイクル製品の購入〉(8.2%)、〈ア ごみの減量 4 レジ袋の有料化〉(6.2%)となっている。

また、〈オ お住まいの近くへのごみ処理施設の設置〉について、「やむを得ない」と回答した人の割合(40.1%)は、「反対」と回答した人の割合(21.2%)より高くなっているが、〈カ 県外の工場から出たごみの県内での処理〉について、「やむを得ない」と回答した人の割合(20.0%)は、「反対」と回答した人の割合(49.0%)より低くなっている。

**※【参考】食品ロスとは**

食べ残し、売れ残りや期限が近いなどの理由で、食べられるのに捨てられてしまう食品のこと。